



麦島一輝

むぎしまかずき●電気電子工学専攻1年。愛知県出身。除雪ボランティア代表。活動の改善、充実のために元気プロジェクトに応募し採択される。支援金を除雪道具の購入等に充て、より安全に効率的に活動を展開。

豪雪地帯にある大学ならではの地域貢献、 高齢者の笑顔を励みに次へと繋げるボランティア。

活動の成果

麦島一輝 電気電子工学専攻1年

工学部のある米沢市は、県内でも有数の豪雪地帯。記録的な積雪となった5年前、電気電子工学科東山研究室の学生たちが地元の高齢者宅の除雪作業を買って出たのが除雪ボランティアの始まり。麦島さんは4年次から参加し、2年目となった今冬は代表を務めた。参加するからにはより有意義な活動にしたいと、大学の元気プロジェクトに応募。米沢の高齢者宅の除雪補助、学生の体力の維持と増進、地域の方との交流といった目的が認められ、採択された。得られた支援金でスノーダンプやスコップといった除雪道具、長靴、作業用手袋等を買そろえることができた。活動がさまざまな形で報じられるようになったことで他の研究室や他の学科からも協力したいという学生が現れ、メンバーは50名近くにまで

膨れあがった。

毎週月曜日を活動日とし、毎回、民生委員の方々から除雪を希望する高齢者宅の連絡を受けて、軒数や敷地の広さに合わせて班を編成して除雪にあたった。この冬は例年よりも雪が多かったもののメンバーが増えたおかげで順調に除雪の要請に応えることができた。麦島さんは、雪とは無縁の愛知県出身ながら、ボランティア2年目とあって除雪作業もなかなか堂に入ったもの。米沢に来たばかりの頃はさすがに雪の多さに困惑し、雪道で困っているところを地元の人に助けられたこともあった。「助けてもらった経験があるからこそ、今度は自分が雪で困っている人の役に立ちたいという気持ちになったのだと思う」と麦島さん。ボランティアのメンバーの中には、温暖な

地域出身の麦島さんと同じような経験を持つ学生も少なくない。除雪作業が初めてという学生も前年度に体験した班長や副班長のもとで実践的に習得していった。

今回はこの活動の顧問である東山先生と一緒に除雪を希望しているお宅を事前に回り、除雪箇所の確認や問題点の話し合い等を行い、手際よく作業を進めることができた。

除雪を終えると、高齢者の方は笑顔で「よかった、助かった」と深々とお辞儀をし、お茶を振る舞ってくれることも。地域の人々との交流が実感できる幸せな瞬間であり、次もがんばろうという原動力にもなる。頼りにされることの喜びと責任。麦島さんは、除雪ボランティアをより揺るぎないものにして後輩たちにバトンを渡せたようだ。



1 積雪量や敷地の広さに合わせて班を編成し、班長・副班長の指揮のもと行われる除雪作業。班のメンバーは毎回入れ替わるので学生同士の交流も新鮮で楽しい。



2 除雪を希望しているお宅に向かうメンバーたち。除雪ボランティアを通して仲間も増える。寒さに震えていたはずが、作業後は清々しい汗をかいていることも。



3 民生委員の方々と交えての全体会議。除雪作業の進め方や改善点を話し合うとともに、除雪の際の安全確認等についてアドバイスをいただいた。